

2021年9月19日説教原稿

副牧師 松坂 政広

聖書 ヨエル書 3章 1節

説教題；老人は夢を見、若者は幻を見る。

導入

雨を降らせた後、つまり、ご自身の民を主が回復させられて後、注がれたご自身の霊によって、人々は預言をし、夢を見、幻を見る。と語られました。

実りの秋に向かって、神さまがご自身の霊を注がれるとき、わたしたち老人は、夢を見る。と言います。そして、わたしたち若者は、幻を見る。と言います。神さまのご計画の中で、わたしたちは、どんな夢を見、幻を観させていただけでしょうか。今朝は、この点にごいっしょに注目させていただきます。

#### ① 神さまがご自身の霊を注がれるとき

神さまは、すべての人の上にご自身の霊を注がれるとおっしゃいました。すべての人の上です。恵みですね。あなたがたの息子、娘は預言をする。というのですね。預言をするように導かれる。と書かれてあります。あなたが、わたしなんか、預言をするなんてとんでもありません。そんなことはできません。とおっしゃるでしょ。そういう話ではないらしいですよ。すべての人に注がれるご自身の霊が、わたしたちに預言を授けるといいますから。

あらまあ、困ったわ。なんて言わなくていいですよ。何の心配も要りません。恵みですね。今から504年前に始まったプロテスタント教会は、聖書のみ、信仰義認、万人祭司を3大原則としていますね。聖書に教会が定めたものを付け加える必要がない！救われるために信仰に善行を付け加える必要がない！すべての人が神にとりなすことができる！と言っているわけですが、そこに、万人預言者を加える必要はないですか。

#### ② わたしたち老人は夢を見る とは

イザヤ書29章の8節に「飢えた者が夢を見た。見よ、彼は食べていた。だが目覚めると、彼は空腹のままであった。渴いた者が夢を見た。見よ、彼は飲んでいて、だが、目覚めると、疲れ果てて渴いたままだ。」とあるみたいに、人が夜、寝ているときに見る普通の夢もあるわけですが、あるいは、申命記の13章にあるように、他の神々に仕えるよう誘（いざな）う、主の道から迷わせようとする夢もあるんですね。

ヨエル書の3章1節がわたしたちに語っている夢は、預言と結びついている夢

ですね。たとえば、創世記の28章10節から22節にあるヤコブが見た夢がそうですね。先端が天まで達する階段が地に向かって伸びていた。神のみ使いたちがそこを上ったり下りたりしていたというんですね。そこで主が傍らに立っておっしゃったことが、「13から15節」その夢は現実のものとなりました。

兄弟たちがヨセフをねたむきっかけとなった夢がそうでしたね。かつて預言と結びついている夢を見た経験の持ち主である父ヤコブも、息子ヨセフを叱責しますが、また心に留めたとも記されていますが、このことも神さまのご計画のうちにあります。

バビロンの王ネブカドネザルが見た夢もそうでしたね。それをダニエルがみこころに沿って解き明かした通りに神さまの出来事が現実のものとなりました。

実りの秋に向かって、神さまがご自身の霊を注がれるとき、わたしたち老人は、夢を見る。と言います。神さまのご計画の中で、わたしたちは、どんな夢を見させていただけるのでしょうか。わたしたち老人には何の楽しみもなくなのですよ！神さまがご自身の霊を注がれて、夢を見させてくださる！というのですから。これ以上の楽しみがあるでしょうか？

### ③ わたしたち若者は幻を見る とは

聖書の vision 幻には明確な目的があって、神さまが人の耳を開こうとされる幻（ヨブ記33：15）と神さまとのコミュニケーションに導かれるもの（サム下7：17）があるんですね。

神さまが人の耳を開こうとされる幻とは、それによって、わたしたちの魂を滅亡から呼び戻してくださるんですね。

神さまとのコミュニケーションに導こうとされる幻とは、それを見たナタンが、ダビデに告げると、彼は、自分を認めてくださったこのお方以外に神はいないと言ひ表し、ご自身の民を贖い、ご自身の民の神となられたという祈りへと導かれたのでしたね。

実りの秋に向かって、神さまがご自身の霊を注がれるとき、わたしたち若者は、幻を見る。と言います。神さまのご計画の中で、わたしたちは、どんな幻を觀させていただけるのでしょうか。

結び ヘレン・ケラーを支えた電話の父・ベル博士 ジュディス・セントジョージ あすなろ書房から

ご存知ヘレン・ケラーは、1歳7か月のとき重い病気にかかって、見ることも、聞くことも、話すこともできなくなったということですが、それでも、身振りで意思を伝えることを覚えていったそうですね。「お母さん」と言いたいときは、頬に手を当てる。「お父さん」と言いたいときは、めがねをかけるしぐさをしてみせた。

そのヘレン・ケラーが、6歳半のとき、あの電話の父ベル博士と出会うんですね。

「わたしはベル博士の膝に抱かれて時計をいじり、時計が鳴るのを手に感じさせてもらいました。博士にはわたしのサインがわかり、それが感じられたので、わたしはすぐに博士が大好きになり、その時から博士がこの世を去る日まで、わたしの生涯は、彼の理解と愛に包まれていました。」電話の発明によって、人と人とを遠く隔てる距離という壁を取り除いたベルと、世界の障がい者を孤独の中に閉じ込めていた差別という壁を取り除いたヘレンとの出会いです。

ベル博士には、「夢見る場所」があって、少年時代、崖の上の草に寝転んで、川の流れを見つめながら、夢を追ったそうなんですけれども。発見や発明は小さなものの観察から生まれる。と言ったそうですが、ベル博士の発明は、こうした夢見る場所で生まれたというんですね。1876年3月10日、ようやく完成した電話で、ベル博士は、助手のワトソンに、「ワトソン君、ちょっと来てくれないか。」と呼びかけたそうですが、これが、歴史に残る最初の通話だったようですね。この日を境に電話が、人間のコミュニケーションを一変させたというのですが。

わたしたちにも「夢見る場所」がありますか？それがどこであろうと、それは、主が、わたしたちを回復させてくださるときに、ご自身の霊を注いでくださって、預言としてみこころとつながる夢や幻を見させてくださる。それが、神さまのご計画のうちにあったら、どんなに幸いなことでしょうか。